

3月26日(土)、歴史の扉が再び開く

川越城本丸御殿

市立博物館 222-5399

嘉永元年(一八四八)に竣工した、県指定有形文化財・川越城本丸御殿(以下「本丸御殿」)。江戸時代に造られた本丸御殿で、国内に現存する二つのうちの一つです。

昭和42年の大修理から約四十年経過し、雨漏りや壁のひび割れなど傷みが激しくなりました。そこで平成20年10月から保存修理工事を実施。約二年半の歳月をかけて、文化財として保存するために必要な改修を施しました。3月26日(土)の午後2時、再び本丸御殿の扉が開きます。

広間の大壁と杉戸。開館後は広間に入り、間近で見ることができます。



杉戸は川越藩の御用絵師・船津蘭山の手によるもの



杉板の天井には学校として使用されていた際のボールの跡があります



優美な曲線を描く唐破風と櫛型塀は、本丸御殿の魅力の1つ。20,000枚以上ある瓦の7割を再利用。新しい瓦は西側に配置しました。



柱は根継ぎをして元の柱を生かしながら強度を高め(写真右)、床板は腐朽した部分だけを削り新しい材木と組み合わせられています(写真左)。

再利用できない瓦も、中庭の造作の一部としてリサイクルしています。



本丸御殿の歴史と劣化への対応

江戸時代、川越藩十七万石の居城であった川越城。江戸後期の城主御殿は、二の丸にありました。本丸御殿は、弘化3年(一八四六)二の丸御殿が焼失したことにより建てられたものです。十六棟、千二十五坪にも及ぶ広大な建物には、城主が政務を執る書院、藩の仕事を行う場や家臣たちの詰所も置かれた、文字通り城の中心となる建物でした。

明治維新以後、川越城の多くの建物は解体・移築され、城跡地の大部分は学校や公園などに。本丸御殿も建築後三十年足らずで解体の危機を迎えます。明治4年(一八七二)入間県の庁舎として、玄関と広間部分は利用されることになりました。入間県が熊谷県、埼玉県と変遷し

たことに伴い、本丸御殿は「入間郡公会所」になります。その後、大正7年(一九一八)にたばこ工場、昭和8年に武道場(初雁武徳殿)、戦後は第二中学校(現初雁中学校)の仮校舎・屋内運動場や武道場として使われました。数奇な運命をたどったこの建物は、昭和42年、県有形文化財に指定され、公開施設になりました。川越が観光地として有名になる

と、本丸御殿の来館者も増加し、年間十万人を超えるようになりました。月日の経過とともに、雨漏りやそれに伴う構造材の破損など、建物内各所の傷みが目立つようになり、さらに、平成14年の調査では建物全体がゆがんでいることも分かり、改修工事が急務になりました。

工事は「可能な限り再利用」

工事は、建物を一度骨組みだけの状態に解体し、補修や補強を施す「半解体修理」という方法で行われました。木造建築であり、文化財建造物であることを踏まえ、伝統的技術と現代の構造補強を両立できるように取り組んでいます。また、木材は腐

朽部分のみを除去して新材を埋め込み、瓦は一枚ずつ再利用できるものを選別し、壁の土は屋根に葺かれていた土を配合するなど、建築当初から残る部材は可能な限り再利用しています。そのため、修理には多くの困難が立ちばだかりました。



木と対話しながら補修
大工棟梁
木村英彦さん



広間の大壁を仕上げる
左官職人
及川敏さん



瓦の「線」を作り出す
瓦職人
森田操さん



職人をまとめる監督
作業所所長
駒橋隆行さん



竹小舞に壁土を塗りこむ



1枚ずつ瓦をはずす



両端が朽ちた玄関の梁を解体



力を合わせて銅版鬼板を降るす



2つのジャッキで柱を持ち上げる



地震で入るようになった玄関の桁

工夫を凝らす職人の知恵と技

●古い壁を残す

まずは解体作業。当初は、壁をすべて取り払ってから、竹小舞(左上写真)による伝統的な土壁を復元する予定でした。ところが壁の三分の一ぐらいは古い土壁であることが判明。「古い壁は残して漆喰のみを塗り直すことにしましたが、これが垂直方向の調整作業に影響を及ぼすことになりました」と及川さん。

●柱を一本ずつ上げて調整

不陸*1調整は建物全体を持ち上げて、基礎から直して水平を取る予定でした。ところが昭和の大改修の根継ぎ*2が不十分だったことが判明。そこで、百本以上ある柱を一本ずつ持ち上げて調整する方法に変更しました。「この方法だと柱の癖を直しながら根継ぎができるので、構造体

としての安定感も増すんですよ」と木村さん。

ここで問題となったのは建物全体で高低差が約五センチメートルあったこと。一本ずつ上げるとどうしてもほかの部分に構造的な負荷がかかります。そこで二回に分けて行うことに。まず全体の高低差を二センチメートル程度解消し、それから再度持ち上げました。「ジャッキは七本使い、柱を傷めないよう『木の声』を聞いて慎重に行いました」と木村さん。一つ間違えれば建物全体が崩壊しかねない作業は、本丸御殿との声無き対話によって成功しました。

●地震も味方に

次に取り掛かったのが垂直方向の調整。本丸御殿は建物全体が玄関から見て奥に傾いていました。ワイヤ

*1不陸：建築以後の時間経過に伴い、不均一に建物が沈下したり、構造材が破損したりすることが原因で、建物全体が水平でなくなること。不陸調整とは、建物が水平になるようにすること。
*2根継ぎ：湿気などで腐った柱の根元を切り、新しい材木で継ぎ足すこと。
*3土葺き：屋根に土を乗せ、その上に瓦を葺く方法。断熱性に優れるが、屋根が重くなるなど欠点もある。

ー六本で二週間ほど引つ張りでしたが、残した壁や天井があるため、なかなか戻りません。「このまま補強金具で止めるしかないか、と思っていた矢先、震度3ぐらいの地震が発生。すると、十五ミリメートルも傾きが戻っていたんです。おかげで玄関の桁が母屋にはまり、元に戻すことができたんです」と木村さん。駒橋さんは「本丸御殿は『持つて』いますね」。自然現象までも味方に付け、工事は順調に進んでいきました。

●補強と屋根のバランス

調整が済んだ骨組みに施したのは構造補強。できる限りの補強を施したため、構造的に強くなった分、建物自体は重くなってしまいました。「屋根瓦は土葺き*3で、屋根全面に十センチメートル程度の土が乗っていました。建物の強度を高めるため

市立博物館・本丸御殿竣工記念企画展

川越城

— 描かれた城絵図の世界 —

今回の企画展では江戸時代初期から幕末にかけて描かれた川越城図を約35点、城内の建物を描いた図を10点展示します。その中には、川越城内にあった建物を復元できる可能性を秘めた唯一の資料、富士見櫓の実測図も含まれています。

日時…3月26日(土)～5月8日(日)、午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

入館料…200円(160円)▶大学生・高校生=100円(80円)▶中学生以下=無料

* ()内は20人以上の団体料金。



玄関の漆喰を見ながら修理を振り返る

に重くなった分、屋根は軽いほうが良い。そこで瓦の幅に合わせて作った細長い土の山に瓦を葺く方法で、土の量を減らしました」と森田さん。瓦のきれいな線を出すためには、上下左右だけでなく高さも合わせる

必要があります。土葺きは押しすぎると土の山から作り直さなくてはなりません。「斜めの線を出せるように努力しました。この規模の土葺き屋根はほとんど現存していません。工事にかかわることができて光栄に思っています」。

●平らな壁の秘密

屋根が完成すると壁作りが始まりました。土は屋根に乗せていた物を再利用し、わらなどを混ぜて約半年間熟成。こうすると粘り気が出て、強度が増すといわれています。また、土壁は水分が多く、乾くまでに三週間ほど必要です。その間に水分が凍結すると壁の強度が落ちてしまいます。そこで晩秋や早春でも水を入れたバケツを置いて、氷が張ったら作

業をしないようにしました。「その後漆喰を塗って仕上げますが、平らには塗りません。内壁は中心が少しへこんでいて、外壁は逆に出っ張っています。広い壁を平らに見せるための工夫です」と及川さん。

●「見せない」ための技術

最後は内装。「大工は分からないように直すのが仕事」と木村さん。それだけに人目につく床板は一枚一枚を見極め、必要最小限を削ります。新しい木材は元の板になじむ物を選び、削った形にぴったり合うよう加工し、はめ込んでいきます。「しばらくの間は補修した所が分かるでしょうが、一年後にはなじんで分かりにくくなっているはずです」。職人の「見せない」ための自信作です。

●新たな歴史の扉が開く

「工事中でも、写真を撮りに来る人やすき間からのぞく人が多かったですね。本丸御殿はそれだけまちに愛されている、無くてはならない建物であることが分かりました」と駒橋さん。通りかかる人から工事の進み具合について聞かれることも多かったです。

工事を終えた本丸御殿は、壁や屋根がきれいになったほか、あまり変わったように見えないかもしれせん。しかし確実に、職人の知恵と技が詰まっています。今ある姿を守り後世に伝えるのは、百六十三年目を迎えた本丸御殿と同じ時を過ごす私たちです。3月26日、本丸御殿と私たちの新たな歴史の扉が開きます。

本丸御殿無料公開

本丸御殿の竣工を記念して、無料公開します。この機会に、本丸御殿と修理の成果をご覧ください。

期間…3月26日(土)～31日(木)(26日は午後2時から、28日(月)は休館)

開館時間…午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

通常の入館料…100円(80円)▶大学生・高校生=50円(40円)▶中学生以下=無料

* ()内は20人以上の団体料金。

5館共通入館券販売再開

市立博物館・市立美術館・川越まつり会館・本丸御殿・蔵造り資料館の入館・観覧ができる、お得なセット券です。各施設で販売します。

販売時期…4月1日(金)～

価格…650円▶大学生・高校生=450円